

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192300016&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」と思う気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族の気持ちを汲み、天気の良い日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能な外食デーも設けています。地域密着型という特性も活かし、地域活動や、展覧会などにもすすんで参加するよう心がけています。身体的な介護はもちろん必要ですが精神的なケアに重きを置いています。今までの生活スタイルも大切に、新しいつながりを作っていけるような援助をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

養老山脈の風光明媚な場所にあるこのホームは、開設から5年目を迎えている。利用者は、地域に溶け込み、自由で当たり前な暮らしが定着している。医療面では、協力医との連携に加え、精神科医による月に2回の定期往診が実現し、的確な診断により、状態に適した薬が処方されている。それらの効果は、行動・心理症状の劇的な改善、排泄の自立度の向上、歩行が可能となるなどに現れ、本人と家族の喜びにも繋がっている。管理者・職員は、さらに介護の質を高めるために、精神面のケアに重きを置き、少人数の中で、一人ひとりが個人として理解され、受け入れられる暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ケース会議、研修を行い意見交換しながら実践につなげている	理念は「尊厳と自由の尊重」など5項目としている。職員の目に入る位置に掲示し、会議でも共有している。住み慣れた地域の中で、安定した心理状態を維持し、生きがいのある自由な暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外食、地域の清掃活動への参加などを行っている。	自治会に加入し、地域清掃などには職員と利用者が一緒に参加している。地域の敬老会に家族が同行している。地元幼稚園児との交流や、住民ボランティアが、踊りや大正琴などの演奏で頻りに訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議やケアマネ会議などで在宅での介護の状況などを報告し合うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加される区長様などの介護の経験談や要望もお聞きし、お互い意見交換している。	運営推進会議は、行政や地域包括支援センター・家族などの関係者により隔月に開催している。運営報告に対する検討や、災害対策や重度化対応などについて活発な意見交換があり、サービスの改善に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	居宅のケアマネ会議に今年度から参加させてもらい、地域包括だけではなく幅広く協力関係を築けるようにしている。	行政へは、毎月、ホーム便りを持って行き、様々なことを相談できる関係となっている。成年後見や空室情報だけでなく、地域の独居高齢者の相談や生活課題などにおいて地域包括支援センターと協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束を理解し、実践しているが、生命に危険がある場合は家族と話し合いベッド柵などの対応を一時的に行っている。玄関の施錠は夜間行っている。	身体拘束は、生命に係わる場合、最後の手段として同意書などの書式も揃えている。ほとんどが職員のきめ細かな努力と観察・内部研修などにより、現在は拘束には至っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修項目に上げている。日々の注意として全スタッフが身体チェックを心がけるようにしている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用実績はないが、具体的に例を挙げ研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	先に入居契約書や重要事項説明書をお渡しし、目を通してもらってから本契約時に個別に質問に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている	運営推進会議に参加した家族や訪問の機会に意見を聞いている。家族からは、身体状況や投薬についての質問、入院が長引いた場合の退去緩和等の要望がある。それらの内容は、柔軟に受け入れ対応している。	家族の声を拾い上げる方法を模索し、独自のアンケート調査を予定している。その取り組みと共に、家族とは、何でも気楽に話せる関係づくりにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個別に話をする機会を設けるようにしている。	管理者は、定例の会議で職員から意見を聞いている。ホーム便りの内容や構成についての提案や、レクリエーションの進め方の意見、アイデア等があり、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の制限はせず、有休、特別休暇も消化してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修もどんどん参加してもらい、日々の業務に反映している。資格取得も勤務変更などでサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養老町グループホーム協議会を設立し、お互いの近況報告、相談を交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは自分の居場所を作ってもらえるよう、スタッフが間に入り、家族の協力ももらいながら輪を広げるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに本人の生活スタイルや要望を家族などからも聞き取りし、一緒にケアプランを作成している。入居後は家族へたびたび近況報告し、行事に参加してもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期目標があつて短期目標があるので、そこへ向かって出来ること、出来そうなこと、出来ないことを家族と話し合いケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場なので、一緒に暮らしていく事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に新聞や近況報告の連絡をし、行事に参加してもらいながら関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行かれていた喫茶店や八百屋などに行くようにしている。また家族には住まれていた地域の催し物があれば教えてもらうよう声をかけている。	友人や知人・親戚・孫が訪れ、リビングで他の利用者と共にゲームなどを行い、ひと時を過ごしている。自宅近くの喫茶店や美容院、八百屋にも出かけ、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や過去を話題に出し、つながりが持てるようにスタッフが支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や季節の挨拶で近況を尋ね、フォローできることがあれば相談してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独居の方はのんびり過ごされているケースが多く、共同生活になると窮屈に感じる方が多いので、そのままの生活を続けて家族が増えるだけ。という感覚を持ってもらえるよう努力している。	普段の生活の中で、その人の好きなことや得意なこと、家事や農業など、生活歴の話題から、利用者の思いを把握する手段としている。把握した思いは、職員会議で話し合い、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までに本人や家族から生活歴などをお聞きし、継続していけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあるケアプランをたてる為にも毎日の申し送りなどで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族はもちろん運営推進会議などでもケアプランに関して意見を出してもらい、反映できるよう努めている。	3ヶ月に1回のケア会議において、本人や家族、場合によってはかかりつけ医などの意見も加え、現状に即した介護計画を作成している。本人・家族から新たな要望があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別ケアについて情報交換しており、毎月少しずつ介護計画の見直しがあり実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで通われていた病院やリハビリを続けてもらえるよう家族の協力のもと通院されるケースもある。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉大会や、敬老会などに参加し、出来る方は清掃活動にも参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族に希望の科目と病院を教えただき、家族の協力も得て受診できるようにしている。	これまでのかかりつけ医を継続し、希望者のみ、協力医に変更している。月に2回、協力医の往診に加え、歯科医、精神科医の往診があり、万全を期している。通院は、家族の役割りであるが、都合によっては職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネが看護師も兼務しているので適切な受診、看護を提供できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院を日頃から話をしている。退院前のリハビリや入院時は状況を把握してもらうようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期ケアについて説明し、同意書もらうことにしている。特別養護老人施設などへの申し込みもお願いしている。	利用開始時に、重度化・終末期の方針を説明し、家族の同意も得ている。ホームで可能な医療行為を範囲としており、他の老人施設か医療機関へ円滑に移れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、区長を通して地域の方に避難介助を支援してもらえるように努めている。	年に2回の避難訓練を行い、1回は消防署と、1回は自主訓練を行っている。安全な場所への利用者の誘導や通報練習、機器の扱い方などを確認している。食品や飲料水、衛生用品などの備蓄も行い、地域とも協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴をもとに、NGワードなどを把握するようにしている。	その人その人を見つめ、傾聴の姿勢に徹し、意向や希望を聞き取るよう配慮している。夜間の居室のドアの開け閉めやトイレ誘導なども、利用者に希望と思いを聞き取り、支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも言える環境づくりに努めているので、比較的希望をはっきり言われる方が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気の良い日には声をかけ希望の喫茶店や買物ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服は自分で選んでもらえるよう援助し、入浴の準備も職員と一緒に話しながら用意している。整容は2ヶ月に1度訪問散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事以外で恵方巻きを作ったり、行事で焼きそばやホットケーキを焼いてもらったりして参加されている。	食材と献立は業者に委託しているが、調理はホームで行い、得意な人には下準備や皮むき、大根おろしなど、その人の能力に合わせ、手伝ってもらっている。差し入れのはっさくを利用者が皮をむき、シロップ漬けにしたり、ケーキのデコレーションを行ったりと様々な取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた食事を摂っている。水分がなかなかとれない方はゼリーや水分含有量の多い食品を食べてもらうなど努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と併せて指導のもと日々口腔ケアを実践している。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄パターンが把握できてきた方は日中の失禁は軽減傾向にある。	利用者の排泄パターンをチェックし、こまめに誘導することで、歩行してトイレに行けるようになり、おむつからリハビリパンツへと、排泄の自立に繋がっている。利用者の安定した心理症状を保つことで、排泄の訴えができるようになり、失禁が軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬剤に頼らないよう、ヨーグルトや漢方茶で対応し、食事前のリハビリ体操や散歩に参加してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望をお聞きし対応しているが、なかなか全ての希望には答えられていない。	週3回の入浴を、日中の午前の時間帯に行っている。気の合う人同士と一緒に入浴することもあり、入浴がホームで暮らす利用者の楽しみの一つとなっている。	事業所は、利用者のさらなる重度化に備え、介助しやすい浴室改善の必要性を痛感している。今後の取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別決まった時間配分はないので、本人の意思に任せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科往診で薬剤の変更相談などがあれば全職員が前日までに看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を重視しているので、喫茶店やドライブ、買物など希望にあわせてスタッフを配置するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て一時帰宅や外食をお願いしている。遠出希望の場合は遠足などの行事に取り入れるようにしている。	天候の良い日には、近隣の養老公園までドライブし、散策している。庭に椅子とテーブルを出し、外気浴と日光浴を兼ねたティータイムを楽しんでいる。外食の日には、道の駅やチューリップ公園などへ出かけている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の危険もあるので全員ではないが、生活用品や嗜好品が購入できる程度の金額を管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状を含め、日常の電話はかけてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ってもらったり行事の際の写真の展示、自分たちの作品の展示などを行っている。トイレも分かりやすいように表示するようにしている。	リビングは、1階2階共に、南に面し、明るい自然の光が入ってくる。日中は食卓のテーブルを囲み、レクリエーションや作品作りなどで過ごしている。利用者に分かりやすくトイレ標識を絵で表示したり、車椅子のまま使える洗面所など、様々な工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファは食事後テレビを見ながらお話されている。見たい番組が違う場合は居室でゆっくり見られていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族も参加で居室作りをしている。顔Z区には写真や思い出の賞状などを持ってきてもらっている。	使い慣れた整理ダンスや家具が持ち込まれ、本人の使いやすいよう家族が配置をしている。居室には、家族の写真を飾ったり、自分の作品を展示したりと、個性ある生活を思わせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や自席の配置から気を配っている。状況によってその時その時サポートできるように努めている。		